

人工呼吸 容易に

補助器、東海大と開発

フェルマバレープロジェクト（富士山ろく先端健康産業集積）で医療機器分野に参入した部品メーカーの東海部品工業（沼津市、盛田延之社長）は、事故や災害などで自発呼吸ができなくなった患者に対し、容易に人工呼吸が行える呼吸補助器を、東海大との産学連携で開発した。商品名は「QQセーバー」。指定管理医療機器として七月末にも発売する。

東海部品工業

産学連携、今月末にも発売

吸気弁や呼気弁、三方向弁など呼吸器回路が取り付けられた本体、空気をためる伸縮管（ペローズ）、人工呼吸器用マスクの三点で構成。伸縮管を伸ばして救助者が息を吸い込むと呼吸器回路内に外気が満たされ、息を吐くと回路内の新鮮な空気が患者に送り込まれる。熟練者でなくても一人が扱えるという。

東海大開発工学部医用生体工学科の金井直明教授が発案、医療器具の完成品製造ができる第二種医療機器製造販売業を取得している東海部品工業が製品化した。一台五千五百円で、月二千台の販売を見込む。

同社はパソコンのHD D向け精密ネジなどを製造するメーカーで、伊豆

市の天城工場で医療用ネジの生産を本格化させている。平野光輝工場長は「医療用ネジとともに安定生産を目指す。人工呼吸器はAED（自動体外式除細動器）とセットで設置してもらえたら」と期待している。

東海部品工業が開発した呼吸補助器「QQセーバー」

